HOA BINH（ホア　ビン　平和）レポート

JVPF 内閣府認証 特定非営利活動法人 日本ベトナム平和友好連絡会議（日越友好連）
NPO Japan Vietnam Peace and Friendship Promotion Council
〒162-0801 東京都新宿区山吹町333番地 辻ビル405　TEL 03-3268-4387　FAX 03-3268-6079
c/o. IFCC.#405,TsujiBLD,333,Yamabuki-cho,shinjuku-ku,Tokyo,Japan　TEL(81)3-3268-4387/FAX(81)3-3268-6079
http://ifcc1985.com　jvccpf@rmail.plala.or.jp

会費／正会員：(個人)5,000円 (団体)50,000円 口座名／日本ベトナム平和友好連絡会議
◎郵便振替 00110−2−188872 ◎三菱UFJ銀行・江戸川橋支店(普通)1215225
◎ゆうちょ銀行・〇一九(ゼロイチキュウ)店(当座)0188872

46 号

23 年を数えた枯れ葉剤爆弾被害者支援ベトナムアンサンブルチャリテイーコンサートの模様（2018 年 10 月）

明けましておめでとうございます。本年も宜しくお願い致します。

私は，ＪＶＰＦの副会長とともに日本ベトナム平和友好埼玉連絡会（埼玉連絡会）の会長をしています。

埼玉においては、多くの人に見てもらい、「枯葉剤の被害により今も多くの人が苦しんでいることを知ってもらいたい」「ベトナムの音楽の素晴らしさに触れて欲しい」ということから、毎年３月ごろ、県内の色々な市町村でコンサートの実行委員会を立ち上げてきました。しかし、うまく実行委員会ができず、観客の動員と資金の確保に難儀することもありました。そこで、コンサートの受け皿として、２０１１年に埼玉連絡会を立ち上げました。その後は埼玉連絡会が実行委員会を指導援助して、コンサートはほぼ成功しています。

また、埼玉連絡会では、会員の平松伴子さんが中心となって、枯葉剤の被害者の「家を持ちたい」という願いに応える支援の仕組み「仁愛の家」寄贈活動があり、現在、寄贈建設は２７軒となっています。

当会も会員の高齢化と会員数の減少に伴い会員拡大が緊急の課題となっていますが、在日ベトナム人の急増を受けて一層の草の根の友好活動の発展を進めたいと思います。

2019 年正月とテトの日

日本ベトナム平和友好連絡会議
副会長　山下　茂（元・埼玉弁護士会会長）

本号の内容
●2018 ベトナムアンサンブルコンサート報告／鹿児島、福岡、長崎、大阪、奈良
●訪ねて――クアンナム、ハザン、クアンチ・ホーチミン
●便り――希望の村、枯葉剤記録上映会、写真展
●掲示板

第１２回総会（２３回理事会）のご案内
2019 年６月１日（土）午後3時 00 分～5時 30 分
23 回理事会は同日、同所で午後１時 30 分より
後日、正式ご案内を致しますので、ご予定お願いします。
※2019 年のテト（旧暦元旦）は２月５日です

～23年目となったベトナムアンサンブルチャリテイーコンサート～

平和の生き証人の叫びに応えて～事実を忘却しないために

鹿児島・日置公演

県下で12回目、来場者が500人を超えた

～街宣カーによる呼びかけや観光協会の支援も～

2000年に始まった鹿児島県におけるベトナムアンサンブル公演は、今年の日置公演で12回目を迎えました。

ベトナム技能実習生を自治会へ誘う

今回の日置公演では、7 月に実行委員会発足準備会を開催し、実行委員長

日置市長を表敬訪問し新聞で報道される

には、地元伊集院町に在住しているベトナム技能実習生に、日本語を教えている、下萩正さん（元高等学校の国語教師）にお願いしました。下萩さんは自治会長から「災害時の避難誘導」や、「コミュニティーでの人間関係づくり」のためということで、雇用企業とも連携し自治会に加入させ日本語教室を開いています。

協力券販売 550 枚を突破！

実行委員会は、公演当日まで延べ 5 回の実行委員会を開催しました。実行委員会で一番議論になったのは「コンサート協力券」の販売目標です。会場は 1200 席あり、今回は 500 枚以上の販売目標にしました。結果として、協力券は 550 枚を売り上げることができ、当日の入場者は約 500 名でこれまでの最高を記録しました。

努力したこと

①実行委員長をはじめ､約 50 名の実行委員（護憲平和団体・連合・社民党など）の目標体制に向けた、実行委員会での相互討論を繰り返し議論できたこと。

②伊集院町内の街宣カーによる呼びかけや地元観光協会の支援で商店などへのポスター掲示など努力した結果、これまでにない当日券販売枚数を記録。

③歌舞団が公演前日に日置市に到着することを活用し、市長・教育長への表敬訪問を実施。そして地元の新聞に公演当日掲載（写真参照）。これまでにない取り組みを行う。

④ベトナム戦争での枯れ葉剤爆弾被害児童のリハビリ施設など支援（チャリティー）であることをＣＤ「それでも生きてゆく」を上映。

今後の課題と問題点

①実行委員会を早期実施に至らなかったこと。

②鹿児島県ではベトナムからの技能就労者が中国を抜いて１位に達していますが、就労者及び留学生への呼びかけが不十分に終わったこと。ただ、受け入れ企業など、安い労賃・待遇・外部との接触禁止など、厳しい現状がある事をもっと私たちが理解することが重要だと思い知らされました。今国会で問題になっている外国人労働者の受け入れの問題とも係わってきます。

同実行委員会事務局　牟田　実

福岡公演

在福岡ベトナム総領事館との共催で開催

～被害者で画家のレ・ミン・チャウさんを招聘～

今回のベトナム民族アンサンブルコンサートは、日越外交関係樹立４５周年の記念行事の１つとして在福岡ベトナム社会主義共和国総領事館との共催で開催しました。

コンサートを成功させるため、１０月１５日から２０日までの期間、西南学院大学図書館をお借りし､「ベトナムの観光とくらし」｢枯葉剤被害のこどもたち」をテーマに写真展を開催するとともに、自らも枯葉剤被害者で画家のレ・ミン・チャウさんの絵画展も開催しました。

今回、特別ゲストとして招聘したレ・ミン・チャウさんは、１０月１８日に福岡に来て、その日の午後２時から博多区の東光中学校で全校生徒と交流し、絵画の実演などを行い、親睦を深めました。また、翌１９日には、西南学院大学コミュニティーホールで西南学院大学の学生と同様の交流会を行いました。東光中学校では、全校生徒・教職員・保護者、約１８０名が参加をし、西南学院大学では、学生・教職員１２０名が参加しました。

この交流会の様子は、西日本新聞や朝日新聞にも取り上げられ、枯葉剤による重度の後遺障害をもちながらも、画家として活躍するレ・ミン・チャウさんの存在を多くの人に知らせることができました。

本番のコンサートは１０月２０日（土）、午後６時から、西南学院大学チャペルで約２時間行いました。コンサートは、２部構成とし、第１部では、グエン・フォン・ホン・ベトナム総領事の「日越外交関係樹立４５年の意義」についてお話をしていただいた後､「枯葉剤被害者の現状」についてレ・ミン・チャウさんから報告していただきました。

第２部のベトナム民族アンサンブルコンサートは､「ベトナム民族楽器の調べ」､「チンコンソンの世界」という構成で行われ、歌や民族舞踊、民族音楽などが披露されました。

また、コンサートの後半では、チンコンソンの音楽にあわせレ・ミン・チャウさんによる絵画パフォーマンスも行われ、多くの参加者を感動させました。

障害者で画家のレ･ミン･チャウさんのパフォーマンス

閉会行事ではベトナム航空から提供していただいた福岡・ベトナム無料往復航空券の抽選会を行い、コンサートを終了しました。

参加者数は、新聞報道や前段の写真展や絵画展のとりくみもあって約４５０名の参加がありました。（リライト編者）

実行委員会事務局　高木豊彦

長崎公演

義捐金 30 万円を寄贈

～長崎ハンドベルコミニュティーが協賛参加～

永年ベトナムとの民間交流に携わって来た関係で福岡総領事館のホン総領事から長崎での公演を要請されました。

長崎ハンドベルコミニュテイ―の皆さんの演奏

長崎とベトナムとの関係は我が国の鎖国時代長崎の「出島」と「ホイアン」との交易の歴史から、1600 年時代からの縁があり、特に御朱印船；荒木宗太郎は今でも語り継がれています。

昨年 11 月長崎県は御朱印船のレプリカを（全長 15m重さ 4.5 トン）をホイアン市に寄贈して、クワンナム省と友好都市締結を実行しました。政財界一緒になって交流を進めています

交流 45 周年の区切りの年でもあり、実行委員会を立ち上げ、会場の確保、その他皆さんが一致団結して、開催の為の準備を進めてきたおかげで、当初は収容人員 500 名の会場を如何にして埋められるか開演当日迄心配の連続でした。

県、市、商工会議所、商工連合会、議会関係者の無理をお願いして回りましたが、お陰様で 400 名超の入場者で満席に近い公演となりました

長崎は被爆県として、特に平和には強い関心があり、ベトナムの枯葉剤支援も平和をキーワードにしました。特に長崎はハンドベルが似合う街です、長崎のハンドベルコミュニティー団体に出演をお願いし、有名な「長崎の鐘」をコラボレーションして頂きこれが素晴らしい演奏で観客を魅了する事が出来ました。

会場に足を運んで頂いた方達もベトナムの楽器による演奏に大変満足された由、お聞きし実行委員一同満足して居ります。

会場にはホン総領事もおいで頂き、最後までお付き合い下さいました。開演に先立ち枯葉剤支援基金として 300.000 円を寄贈する事が出来ました。

楽団員及び関係者との終了後の食事会ではお互いに心が通じ合い、和気藹々の中で遅くまで談笑してお別れしました。

今回の公演を通じて、感じた事は、一生懸命取り組めば、結果は必ずついて来ること、終わりよければ全て良し、を経験させられました。関係者の皆様本当に有難う御座いました。心から厚くお礼申し上げます。

平成 30 年 11 月 17 日

ベトナム枯葉剤支援コンサート

実行委員会　委員長　本田文昭

大阪・友情演奏会

小さな出会いを繋げ広げて

～南米の民族音楽を愛するエスペレ・ウン・ポコが参加～

この度はチャリティーコンサートツアーのご成功を心よりお祝い申し上げます。

実のところ、どれほど集客が見込めるか我々にも未知数でありました。スタッフも少なく準備期間も限られた中で有難い事に満席を超え、温かな友情コンサートが実現した事、これは、平和への願いが繋がった証でしょうか。皆様からは「ベトナムの民族音楽を初めて聴いた！美しい音色に感動した！」との嬉しい声が随所から寄せられ我々も嬉しくなりました。

ところで、なぜ南米の民族音楽を愛するエスペレ・ウン・ポコがベトナムなの？とは私たちも不思議に思います。きっかけは２年前、橋本道範氏とグエン・テ・ビンさん、ベトナムアンサンブルの東京公演でした。そこで私たちは初めてビンさんに出会い、ベトナム民族音楽に触れ、その美しさにアジアの美色を重ね魅了されました。その翌年、エスペレ・ウン・ポコもホーチミン市に飛び、ビンさんの学校施設訪問やチャリティコンサートに参加させて頂く光栄に与りました。

エスペレ・ウン・ポコと橋本道範さん（左端）

日向公演後、民間大使として公演後交流懇親会（2018/10/17）

初めて訪れるベトナムの地で、今なお残る戦争の傷跡に心が痛みました。過去の事ではなかったのです。

一つの友情が音楽を通じてたくさんの出会いを生み、異文化に触れ、互いの親睦を深められた事は奇跡のようです。そして何より、平和への一助になれたことを誇りに思います。

今後もＪＶＰＦの活動が引き継がれ、未来には、笑顔溢れる多文化共生の豊かな世界が訪れる事を祈念致します。

IFCC、ふぇみん大阪はじめ世話人に参集された個人の皆様にはこのような

御　礼

２３年目のチャリティー公演は 2018 年 10 月 16 日～30 日の期間、9 箇所でチャリティー公演、１箇所で日越友情演奏会、１箇所で友好活動（埼玉・東松山市小学校で民族楽器紹介・演奏）を行いました。来場者は約２，９００人、チケット購入協賛者は４，０００人ほどとなりました。公演回数は少ないでしたが夫々の公演は予想を超える参加者で主催者や公演実行委員会方々のご尽力の賜物と感謝する次第です。

今回は枯葉剤被害者支援とともに日本ベトナム外交関係樹立４５周年記念事業としても位置付け、長崎公演、福岡公演には在福岡ベトナム総領事館のグェン・フォン・ホン総領事からご挨拶をいただきました。アンサンブルメンバーも民間大使として活躍しました。

また、大阪生野区では**日生日本語学園の自主公演**が、東松山公演では**オペラ歌手・角田和宏さん**のゲスト出演などが実現しました。枯葉剤爆弾被害者の“わたしの体の中では戦争が終わっていない”という叫びを届け続けられたことを有難く思っております。ここにあらためて御礼を申し上げます。

記：鎌田　篤則

貴重な機会を頂き、心よりお礼申し上げます。有り難うございました。

エスペレ・ウン・ポコ　姜　信恵

以下、参加者からの感想を掲載します。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

奈良公演
11 年ぶり、５回目の公演
～ベトナムへの思いが手繰り寄せられた～

2018 奈良公演が 10 月 26 日に開催され、ベトナム戦争の終結とともに、遠のいていたベトナムへの思いが手繰り寄せられたコンサート参加となりました。

５回目となる奈良公演は、多くの方のご協力をいただき、当初の予想を上回る入場者を数えることができました。見てくださった方からは一様に「良かった」、「レベルの高い演奏だった」、「もっとたくさんの人に見てもらえたら良かったのに」等々、お褒めのことばをいただきました。チケット売りに奔走してくださった仲間に支えられて実施できたと思います。一連の準備の中で、沢山のベトナム人が奈良や大阪で働いていることを知りました。これは「入管法改正」の背景にある事実とつながることでした。いろいろ難しい状況はありましたが、ベトナムとの外交樹立４５周年という節目の年に開催できたことを大変喜んでいます。

竹や石でつくられた民族楽器や、アオザイなど色鮮やかな民族衣装に包まれた美しい歌舞は圧巻でした。53 もの少数民族が醸し出すハーモニーこそ平和の原点だと実感できるコンサートでした。とりわけ、ベトナムの魂　吟遊詩人・チンコンソンの楽曲は、もの悲しい中にも平和への願いが伝わってきました。また、ギター演奏家グエン・テ・ビンさんのギターとハーモニカによる情感豊かな演奏はベトナム民族の戦争への怒りと平和への願いが伝わり、感動が全身を覆いました。

今回のコンサートへの参加で、1970 年前半の「ベトナム戦争反対！」「アメリカは北爆をヤメロ！」とこぶしを上げ御堂筋デモに参加したことが走馬灯のように思い出されます。

70 年安保、ベトナム反戦闘争から半世紀近くたち、日本は戦争のできる国へと大きく舵を切り憲法改悪の動きが表面化しています。沈黙は安倍政治を容認することにつながります。今こそ、平和への思いを広めましょう。（垣渕幸子）

奈良公演実行委員会事務局長
阪本美知子（奈良市議会議員）

訪　れ　て

クアンナム省で『仁愛の家』寄贈支援、30 軒へ～

2018 年 8 月 6 日、猛暑の日本を抜け出してベトナム訪問へ。今年のベトナム訪問のメンバーは越谷市の石山博さん・横山尚夫さん・川越市の平松辰雄と平松伴子の 4 人。ベトナムも暑いが、日本の熱風のような暑さではなく、ホッとした。

JVPF 埼玉連絡会 副会長　平松　伴子

お元気だったビン女史

いつものようにハノイのホテルに着き、16 時にグエン・ティ・ビン女史（元・ベトナム国副大統領）の事務所に伺った。ビン女史は「昨年よりは元気」とご自身でおっしゃり、色々なことを話して下さった。特に、JVPF にも関係のある「クアンチ省と広島県の友好都市提携」について詳しく話して下さり、また、将来は「平和の日」を制定して世界に発信する計画もあるとのこと。それは素晴らしいことだと私たちも思った。

今、ベトナムではビン女史の本の出版や CD の製作が続き、その内容が高く評価され、すぐに完売になってしまうとのこと。その貴重な本を私にも下さった。「トモコにあげるために 1 冊残しておいた」と。その内容は「パリ和平会談」当時の写真集で、ベトナム語と英語で解説してあり、大変分かりやすく、貴重そのもの。日本のメディアでは一度も取り上げられていないもので、本を開くと時の経つのも忘れる。

その後、ハノイからクアンナムへ向かった。

「仁愛の家 No.25」仏教会も支援

ティエン・フォク県のポー・ティ・ペさんは元気だった。家はきれいに出来上がっていた。ベッドルームも 3 つあり、大きなベッドが入っていた。村の役員や近所の人々も集まっていて、建設経過を説明してくれた。新しい出来事は建設資金の不足分をこの地の仏教会が出してくれたことと、地域の人々が建設作業を手伝ってくれたこと。昨年は 1 軒、企業が支援してくれた。

ペさんから「去年まで元気だった嫁がガンで死んでしまった。長男も昨日、病院に入院した」との悲しい報告があり、気の毒に思った。お嫁さんもダイオキシンの被害者だったのだ。残された 1 人の息子さんも被害者である。ペさんを励まして地域の人々に支援をお願いした。

「仁愛の家 No.26」

第三世代被害者の寝たきりの孫（17 歳）と世話をしているおばあちゃん（91 歳）。少数民族のため越語は通じない・

フォク・ソン県のア・オンさんの家はランドクルーザーで 2 時間 20 分、ラオス国境の村にあった。家族 7 人、両親は解放軍として戦い、ダイオキ

シンを浴びて死んだ。その子供も孫もみんな被害者だが、国に認めてもらえないので生活が苦しい。一番被害がはっきりしている娘さんの足を見せてもらった。歩行困難なので、家に小さな店を作ってもらい、店番をしているとのこと。

出来上がった「仁愛の家」は玄関もしゃれた造りで、立派だった。家族は山の中に野菜を作り、牛や豚を飼って自給自足の生活をしている。これまでは家を造ることなど考えられなかったが、埼玉 JVPF の支援金に人民委員会・友好連合・VAVA・赤十字などの援助も受けて、家を建て替えたとのこと。

この村は「少数民族の村」なので、ご主人の名前は正式には「A　ON」という。こんな小さな村に何故、アメリカ軍は大量にダイオキシンを何度も撒いたのか？当時のアメリカ軍人に聞いてみたい。それに加担した日本政府には娘さんの足を見せてやりたい。

「仁愛の家 No.27」

フォク・ソン県のア・トウさん（A　Thau）の家もラオス国境の川沿いの村にあった。天井も高く、大きな立派な家だ。ところが、最初に案内されたのは奥の部屋だった。そこには大きなベッドがあり、少年が寝ていた。180 度に曲がった両手を胸の上に置き、笑ったような大きな口を開けている。そして、そのベッドの端に赤い上着に黒いズボンをはいたおばあちゃんが鋭い視線をこちらに向けている。おじいちゃんはダイオキシンの被害で死んだという。

子供さん夫婦は働かなければ生きていけない。おばあちゃんがこの重症の障害児の世話をしているという。食べる物は、おばあちゃんが噛んで孫の口に入れてやる。大小便の世話は勿論のこと、全身を動かすことのできない孫のすべての世話をしているとのこと。このおばあちゃんは純粋の少数民族なので、いわゆる「ベトナム語」は全く通じない。村の役員にも話が出来ない。息子さんたちにしか意思疎通は出来ない。そのような少数民族の人々がまだまだベトナムには居るということを再認識した訪問だった。このおばあちゃんの目を見ると「何故、私たちがこんなつらい思いをしなければならないのか？」と言っているのが判る。91 歳のおばあちゃんと 17 歳の少年、「無言の会話」で 2 人はつながっている。何とも、慰めの言葉も見つからない。

「仁愛の家 No.28」予定の家

昨年からクアンナム友好連合では、次年の「仁愛の家」の建設希望者の家を私たち訪問団に紹介してくれるようになった。今年、伺った「No.25」の家も昨年、既に下見をしていた家だった。しかも、その家の方にも会うことになっていた。

今年も「No.28 の予定の家」を訪問し、話し合いをした。この家が来年にはどんな家になっているか、楽しみである。

これまでは建設前の家の姿を公表してこなかったが、ご当人たちも私たちもお互いに顔を合わせ、新しい家ができるのを楽しみにするという機会になってきたのは良いことだと思う。

2018 年の支援金で十分に 3 軒は建設できると友好連合からも伺っているので、来年も必ず訪問して新しい家に住むダイオキシン被害者の家族の皆さんとお会いしたいと思う。JVPF の会員の皆様も是非、ご参加下さい。

――略――

「クアンナム省人民委員会」表敬訪問

クアンナム省人民委員会を表敬訪問し、レ・ファン・タン副主席とお会いした。その席では、ダイオキシンの第 4 世代までできた被害状況について話し合った。特に、世界の支援を求めるためには「国際連合」への現状報告と救済提訴が必要ではないかと私が提案した。ダイオキシン被害問題はアメリカ・日本に遠慮する必要はないし、ベトナムの自国内だけで解決できる問題ではないと思うからである。

――略――

今年の「仁愛の家」の特徴は、3 軒のうち 2 軒がラオス国境の少数民族の人々の家だったことである。かつて、ホーチミン大統領の革命が多くの少数民族の人々に支えられたことを考えれば、当然のことだと思う。

ラオスの国境の人々の生活は厳しい。周囲は全部が山である。目の前の川の向こう岸はラオスである。お互いに仲良く暮らさなければ生きてはいけない。

私たち日本人が見習うべき所かも知れない。（2018 ベトナムアンサンブルパンフより）

（記：2018/9/21　リライト：編者）

ハザン省で　探訪・熟考

～ 枯 葉 剤 被 害 者 宅 訪 問 で 思 う ～

JVPF 宮崎支部　川畑　匡

今回 (2018/1/15) もハザン市内の当該者の家庭を 2 軒訪問しました。

――ベトナム戦争に関して、私の中にある、どうしても抜けきれない日本人としての加害者意識について述べます。もちろん、労働運動を通して、一人の若者として、ベトナム戦争に反対する取り組みには関わってきましたし、逆に、その時があったから今でもベトナムへの関心があるのだと思います。

ベトナム戦争に日本政府は、憲法 9 条の制約を受け自衛隊を派遣することはできなかった。でも、日本独自に、横浜港からは多くの物資が当時の南ベトナムに運ばれ、沖縄の基地からは、前線基地として無数の爆撃機が飛び立っていきました。そして、枯葉剤の成分の一部である「2・4・5・T 剤」は、戦前毒ガス原料の中間剤を製造していた三井東圧化学（現、三井化学）の大牟田工業所で大量に生産されていました（注１）。

アメリカのベトナム戦争、ましてや枯葉剤作戦は絶対に容認できな

いことを前提にしても、枯葉剤の構成物質の一部を日本が生産していた・・・歴史に「仮」はあり得ませんが、仮に、横浜から、沖縄から、大牟田から等の日本政府の協力がなかったとしたら・・・

枯葉剤被害者を世に送り出した責任は私にないのか？ベトナム人から見れば私も日本人であることに変わりはありません。前回、今回と枯葉剤被害者の家庭を訪問させていただいた時に、お話を聞きながらも、重苦しさを感じていました。おそらく、この思いはいくら他の人からあれこれ言われても、私は生涯持ち続けるだろうと思います。それには、おそらくもう一つの事実があるからだと思います。それは、私が、台湾生まれだということです。台湾は、戦後、韓国・中国と違って極めて親日的だとよく聞きます。しかし、占領されて日本語を強制され、日本軍人として外国で戦い、戦後は放置された歴史が、台湾だからといって、全て良し、ということは絶対にあり得ないと考えています。

こう考えると、JVPF の行動はすごいものだと思えてきます。それらの全てを承知して、小さな力を結集し、根気よく根気よく支援を続けていく、改めて感じ入りました。

私も、向こう岸が近づく年齢となってきました。JVPF 宮崎は、できる限り、組織としてベトナムと関わっていきたいと考えていますが、個人的にも自問自答しながら可能な限り関わっていきたいと思っています。

（注 1）1971 年 4 月にアメリカ軍の枯葉剤作戦が中止されると同時に、「2・4・5・T 剤」の生産も中止されたが、大量の在庫の処分に困った。担当したのが林野庁。除草剤として国有林に空中散布した。続けるうちに、日本猿の奇形が生まれ、鹿が泡を吹き、カワウソが激減するなど野生動物への影響が顕在化、人体への影響も噂され、国会でも大きな問題となった。結局、国有林の中にコンクリート詰めにして埋設投棄した。埋設箇所数は 1 道 16 県で 54 か所。現在も「立入禁止」の看板が立っている（私の住む宮崎県内には 8 か所）。

（2018 ベトナムアンサンブルパンフより）

（記：2018/9/21）

ハノイ、クアンチ、ホーチミン

～祝・日越国交樹立 45 周年記念／日越文化交流で深まった絆～

JVPF 副会長　赤木　達男
（広島ベトナム平和友好協会専務理事）

ＨＶＰＦ（広島ベトナム平和友好協会）設立１０周年記念事業の一つとして取り組んだ３コース、総勢２７名の「日本ベトナム国交樹立４５周年記念訪問団」は大きな成果を上げた。

一つは、越日友好協会の表敬だ。元駐日大使だったビン副会長は、１０年前、東広島の（株）サタケで精米器や光選別機を見学した思い出と、サタケのベトナムでの貢献とＨＶＰＦのクアンチ省での奨学支援などに触れながら、多分野での交流促進のために越日友好協会とＨＶＰＦの連携を進めようと述べられた。

二つは、クアンチ省人民評議会の表敬、少数民族寄宿高等学校での「奨学金授与式」、少数民族村の訪問だ。フン人民評議会議長には広島県と東広島市に寄せられた豪雨災害義援金に対する県知事と市長からの「お礼状」を渡し、交流課題や関係強化などについて話し合った。フン議長からはフエ大学

好評を博した次郎丸太鼓の皆さんの演奏（ホーチミン）

分校に福祉学科や国際学科を設置し、介護人材を養成し日本に送る計画や広島の平和都市建設に学んだ都市建設計画策定に力を貸してほしいと要望が述べられ、ＨＶＰＦの力量と民間交流団体としての限界があるが、関係機関への情報展開など可能なサポートをすることを伝えた。「奨学金授与式」にはフック副知事が出席するなど、特別企画だったが省かせていただく。

二つの少数民族村を訪ね、奨学生の父母や村の主席などから話を聞いた。急峻な山間で営むパルプ材の造林業・農業などで得る乏しい収入で暮らす実態、３０％ほどの高校進学率で中学校卒業後は海外でメイドや大都市で給仕や皿洗いしか働く場がない中で、奨学金が子どもたちに希望と可能性を与えている。毎年２０名のサポーター確保に苦労しているが、継続しなければと思いを新たにした。

グエン・フー・ビン越日友好協会副会長を表敬する石原賢治 HVPF 理事（ハノイ）

三つ目は、全訪問団が揃い開催した「祝・日本ベトナム国交樹立４５周年記念にイベントインホーチミン」だ。

和太鼓と琴・篠笛の演奏とベトナムの演奏、和服ショーとアオザイショー。

４５０席のベトナム国家大学ホーチミン市人文社会科学大学講堂は立ち見が出る盛況だった。

「日本３大酒処」東広島の１０蔵元から５０本の銘酒をいただき設けた「東広島１０銘酒ブース」、「和服着付け体験ブース」、♪手回オルゴール体験ブース、いずれも大盛況だった。

一連の「設立１０周年記念事業」の成果をもとに、迎えた２０１９年を飛躍への新たな歩を進める年としたい。

豪雨災害義援金を受ける

HVPF は交流を続けてているクアンチ省人民委員会のフン議長から豪雨災害義援金 3 千ドルドルをいただき広島県と東広島市にそれぞれ贈呈された。

（2018 年 7 月 23 日、在日ベトナム大使館にて、義援金を贈呈される赤木達男 HVPF 専務理事）

活動の便り

ふぇみん

児童養護施設「希望の村」支援、23 年

ふぇみんベトナムプロジェクト
渡辺　美里

ふぇみん婦人民主クラブは1995年ベトナム戦争終結 25 周年にレ・リ・ヘイスリップさんをお招きして講演会を行った。レ・リさんは映画「天と地と」のモデルになった方で、故郷のダナンに養護施設「希望の村」を開設していた。さっそく支援を始め、以来 23 年、子どもたちとの交流、ニーズに合わせた支援を目指してきた。

里親・里子の 1 対 1 の関係を作り、手紙のやり取り、成長の報告など、きめ細かく行うことにより、「親」として「子ども」の成長を見守るようにしている。とりわけ毎年の「希望の村」訪問は、感激の一日だ。ベトナム語を習

手話を学ぶ子どもたち

い、ずっと交流を続けていたご夫婦が、今年、里子の結婚式にわざわざダナンに駆け付け、幸せを喜び合った。

2006 年から、卒業後の自立支援を開始した。ボランティアの駐在員を派遣し、子どもたちの希望を聞きながら、大学、専門学校、職業訓練、日本語学習などの費用や生活費を支援している。現在、小学校や幼稚園の先生、ベトナム企業や日系企業で働く者、日本へ留学する者など、それぞれ自立して生活している。高校中退や不合格の子もそれぞれの希望に応じて支援している。こういう子はすんなりいかないのは日本と同じだが、粘り強く努力を促している。

「希望の村」には、現在ろう児が 40 人生活し、小学校教育を受けている。手話は「第 1 言語」という位置づけの元に専門の手話の先生に教えてもらっている。3 人の卒業生がドンナイ聾学校で勉強を続けており、最長の子は「希望の村」の先生になって戻ってくるのを希望している。

2009 年に初めて留学生が来日した。現在 9 人が、日本語学校、専門学校、大学で学んだり、働いたりしている。アメリカの NGO が支援を止めたのを心配して、恩返しをしよう、と立ち上げたのが「ベトナム希望レストラン」だ。月に 1 回レストランを運営し、売り上げを贈っている。12 月で３０回になる。

（付）本号の送付にあたっては旅行社アイエフシーから送料の一部便宜供与を受け、アイエフシーから依頼のツアー・チラシを同封しています。

照射

技能実習生と「入管難民法改正」

在留ベトナム人数は、2011 年 7 月 1 日に施行された「技能実習制度」を契機に 2012 年以降 9.2 倍と急増して、今や中国、韓国に次いで第 3 番目の在留人数に至った。2017 年の前年末増減率は 31.2%とダントツに増えていて、262,405 人の 47%が技能実習で前年末増減率でも 40.1%と増大して、国別では 45.1%でトップと技能実習生により在留ベトナム人が激増し続けていることが分かる。業種では、食品製造、建設、繊維・衣服、機械・金属、農業、漁業関係で半数以上が従業員数 19 人以下の零細企業で受け入れている。技能の習得より「安価な労働者搾取」対象として低賃金と劣悪な労働条件の下で働かされているとの批判の声もあるが実態はよく分かっていない。しかし、2017 年は雇用主の法令違反が原因で 7,089 人の失踪者（避難者）が発生しており、内ベトナム人は 3,751 人、刑法犯検挙人数も 398 人と増加していが凶悪犯はまれで食うための万引きが多数である。不法就労も建設・農業従事者に多くいるらしい。こうした現実を見ると改善を目指した技能実習制度での雇用関係、処遇・労働条件、人権などの保護体制の不十分さが克服されていない、「移民法」施行より実習生が安心して働き技能取得できる環境整備こそが先決である。総会でも指摘されたようにＪＶＰＦの課題として留学生・実習生への向き合い方を考えていく必要があるようだ。

11 月 2 日、政府は「深刻な人手不足解消」のため、単純労働へ就労を可能とした外国人労働者受け入れを拡大する「入管難民法」などの改正を閣議決定して、臨時国会で成立させ 4 月 1 日施行を目指した。法案成立後に基本方針を決め、それに基づき分野別運用方針を策定し、受け入れ対象業種は法務省令で定めるとする、まず成立ありきの拙速な業界の要望を最優先した「法案」である。また、外国人労働者の対象としてベトナムやフィリピン人などを想定していることもＪＶＰＦとして見過ごすことはできない。

人手不足の背景である少子化は、自然現象ではなく社会現象である。安価で使い捨てができる非正規労働者を増大させ、正規労働者の実質賃金も低下して大企業に富が集積している。少子化の真因は低賃金で「結婚して、子どもを産み・育てる」ことができない。日本の社会を健全に持続的に成長させるためには、人間らしい生活ができる賃金保障と長時間労働の解消である。企業原理に沿った安価な外国人労働者を受け入れ、日本の労働者と価格競争が起きれば日本の社会・経済が混迷することは目に見えている。　（2018/12/5 記・田中秀樹）

JVPF 東京

「原爆の図展」で枯葉剤被害者記録「トアとトゥオン」上映

JVPF 東京事務局長　鹿倉　泰祐

昨年の 8 月 6 日～8 日、文京シビックセンターで「原爆の図展」を開催しました。

文京区民による丸木位里、俊夫妻の「原爆の図」展は、今年で１４ 回目を迎え、これまでの延べ 15,000 人を超える入場者に、原爆の被害の実態と平和の尊さ、原発を含む核の廃絶を訴えてきました。

今回は、特別企画として「核兵器廃絶国際キャンペーンのノーベル 平和賞受賞までの歩み」、「枯れ葉剤被害者

記録・トアとトゥオン」上映、監督・製作された鈴木伊織さんのお話を企画しました。

上映後、監督・製作の鈴木伊織さんのお話の模様

上映会には、40 人が参加し映画と監督のお話を最後まで聞いて頂きました。この作品はベトナム戦争での枯葉剤爆弾による戦争犯罪の実相を暴く追跡記録映像ですが、参加者からは戦争による被害だけでなく、次世代にまで影響を残す兵器として原爆も枯葉剤も絶対に使用されてはならないと共通理解を深めました。

熊本・山都町

コンサートのご縁で、枯葉剤被害写真展

ベトナムで 1962～1971 の期間散布された枯葉剤が、1971 年、日本の山林で撒かれようとした。日本にあった枯葉剤散布阻止闘争の記録を忘れてはならないと山都町の人々は語る。

ベトナムアンサンブル熊本公演 のご縁で、枯葉剤被害記録パネル展を開催された西田由未子さんから手紙をいただいた。

IFCC 国際友好文化センター
事務局長　鎌田　篤則　様

この度は、ベトナム戦争枯葉剤爆弾被害キャンペーンパネルをお貸しいただきまして、大変ありがとうございました。長い間お貸しいただいた上に、野田邦治様のお口添えを頂き格安の料金でのご請求にとどめてくださり、重ねてお礼を申し上げます。

11 月 26 日から 30 日まで、熊本県山都町の役場 1 階ロビーにて、同封写真のような展示をさせていただきました。野田様とは、ベトナムアンサンブルコンサートのご縁で今回の展示も実現できました。

場所の都合により、貴重な資料を全部展示することはできませんでしたが、役場に来られる町民の方、それから庁舎で働く職員の方に見ていただくことができました。「知らなかった」「衝撃的だ」「こんなことは、二度と許されない」との感想もいただきました。

この展示に続き、12 月 1 日には「国有林に枯葉剤がまかれようとしたことに、地域住民と全林野職員労働組合が連帯して阻止した運動に学ぶ講演会」を開きました。この展示を並行することで、より深い学びができました。チラシや資料も同封させていただきましたので、ご一読いただければ幸いです。

本当に大変ありがとうございました。会場に来られた方から「是非支援をしましょう」と呼び掛けていただき、急きょカンパが集まりましたので、貸出費用に加えて、送金させていただきます。(振込からしばらくかかると思いますが、ご容赦ください)

水俣、フクシマの問題とも重ね、自分がどう生きるかの問題であるということを再認識させていただきました。この問題は現在進行形であり、子どもたちに希望ある未来を残すために私たちができることをしていかねばならないと痛感しています。

今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。(2018 年 12 月　記)

西田由未子（熊本県山都町　在）

この町の隠れた歴史を語り合う

枯葉剤の空中散布反対住民闘争

山は残った

――「人間も自然に生かされているのに」と怒った山地住民たちのたたかい――

（内大臣の自然を守る会）

一九七一年（昭和四六年）目丸山などの九州山脈に、空中から大量の枯葉剤がまかれようとしました。枯葉剤を撒らし、全部杉山にしようという計画だったそうです。

そのことを知った中村さんたちは「津留の川に枯葉剤の毒が全部流れ込んでくるから大変だ。」と言って立ち上がりました。

でも、中村さんたちの訴えは、なかなか聞いてもらえませんでした。それどころか、町の人たちは「国がすることに反対するなんてけしからん」と言ったそうです。

ベトナム戦争の時、アメリカがベトナムに枯葉剤をまきました。十年以上まきました。中村さんが「ベトナムの人たちは、ジャングルにかくれた。そのかくれ場所をなくすために、アメリカは飛行機でたくさんの枯葉剤をまき続けた。そのおかげで、親、子ども、孫、ひ孫と四代にわたって、障害を持って生まれてくる人たちがいる。戦争のためには、人間は本当にひどいことをする。」と言いました。

学級PTAで目丸山に登りました。もし、枯葉剤がまかれていたら、目丸山の木は全部なくなっていたのだと思いました。みんなで泳いだ津留の川も汚されていたと思います。

平成九年　御岳小学校　五年　平川早恵さんの作文より

「内大臣の自然を守る会」の歩み

・猛毒ダイオキシン枯葉剤散布阻止
・広葉樹植林の提唱と実践
・流域連携―森は海の恋人―
・森林生物遺伝資源保存林指定
―九州中央山地を禁伐区に―
・林政の抜本的改革の世

山都町の講演会呼掛けのチラシから

掲　示　板

●日本ベトナム平和友好埼玉連絡会の平松伴子副会長はクアンナム省人民委員会から招待を受け、2018 年 8 月 19 日開催の日越外交関係樹立 45 周年を記念した催し「日本文化の日」に参加し、「仁愛の家」寄贈活動についてスピーチをおこないました。

クアンナム省ホイアン市で開催されたこの催しは 16 回目を数えるとのこと。

●JVPF の活動に対し宮崎勇雄 JVPF 理事より 50 万円（2018/10/18）、平松伴子・JVPF 埼玉連絡会副会長より 133,390 円（2019/1/10）の寄付をお頂きました。紙上を借りて御礼申し上げます。

●訃報が相次ぎました。昨年 9 月 21 日、Tran Dai Quang ベトナム国家主席が逝去されました。JVPF 村山富市会長は 9 月 26 日、弔問記帳のため在東京のベトナム大使館を訪れました。

また、ベトナムの首相、共産党書記長を歴任されたド・ムオイ氏が昨年 10 月 1 日、逝去されました。享年 101 歳。1994 年 8 月の村山富市総理大臣（JVPF 会長）訪越時の書記長で、1995 年 4 月、共産党書記長として初めて日本を訪問。日越友好・協力の基盤を固められた。JVPF は村山会長名で弔電を送りました。

●鎌田篤則/JVPF 副理事長は、ベトナム国より「友好勲章授与」(国家主席署名)がなされ、2018 年 8 月 31 日、東京で駐日ベトナム大　使グエン・クオック・クオン特命全権大使より手渡されました。

●村山記念 JVPF 日本語学校の近況。現在、学校はレクイドン高校内の本校が 166 人で、他に出前の日本語教育プログラムを高校行っており、その学生がホーチミン市 7 区：80 人、タンビン区:180 人、ビンフォク省（ホングウン高校）：40 人会計:300 人となっています。また、高校での日本語教育プログラムは好評で今後ホーチミン市の 8 区の中学校及び高校、ラムドン省少数民族寄宿高校など拡大する予定です。

留学生は 2017 年度実績で 25 人、2018 年度も 15 人程度が見込まれます。

●24 年目となる枯葉剤被害者支援キャンペーンのための「2019 年秋ベトナムアンサンブル・チャリティーコンサート」の準備が始まりました。今年は東北、関東、北信越、東海を中心として予定しています。ご協力をお願いします。

●2020 年は JVPF 結成 20 周年でベトナ統一 45 周年となります。記念事業を検討していくことになりました。来る第十二回総会（6 月 1 日開催）で具体化を図ります。

●2019 春 JVPF 訪問団は 1 月 12 日、ハザン・ヴイスエン郡少数民族中学校で奨学金贈呈し、その後、枯葉剤被害者支援でハザン、タイビン、ナンデインを訪ねました。

鹿児島 JVPF はラムドン少数民族高校生奨学金贈呈、カムラン省枯葉剤被害者調査慰問で 1 月 24 日から訪越。

※この報告は会報次号で